

Sj

人とクルマのいい関係をめざして

9

2007 SEPTEMBER

●編集室：〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
本田技研工業株式会社
安全運転普及本部内
電話 03(5412)1736

●編集人：千葉英雄

●年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)
※郵便振替 口座番号：00170-7-173273
※加入者名：(株)アストクリエイティブ
安全運転普及本部係

安全運転普及活動ホームページ <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

今月のスポット

一時停止をしない、安全確認をしないということが原因で、多くの方が事故に遭われています。通り慣れた道でも、油断しないことが大切です。(特集より)

CONTENTS

- シリーズ：自転車事故削減に向けて
第2回「高齢者の自転車事故をなくすために」……………①
高齢者の元気な活動を支える自転車教育
TRAFFIC ADVICE ……………④
●交通安全を考える一人・企業・信頼—/’07トラフィック・セーフティ・フォーラム in 埼玉
- SAFETY REPO ……………④
●カナイ産業(株) / お客様の利用状況や行動範囲を把握し、それに対応した安全指導を行う
- 活動短信 / 交通安全センター8月
- OPINION ……………⑤
●山口良一 / バイクも舞台と同じ。練習を重ねてこそ、余裕のある安全な運転技術が身につく
- HOW TO LEAD…………⑤
●Honda健康ドライブスクール / 高齢ドライバーに自分の運転の問題点に気づいてもらうための教育
- DOCUMENT EYE ⑥ ……………⑥
●車道を右側通行する自転車を観察する

シリーズ：自転車事故削減に向けて 第②回「高齢者の自転車事故をなくすために」 高齢者の元気な活動を支える自転車教育



Honda自転車シミュレーターを活用した三重県桑名市の「自転車乗り方講習会」

平成18年の自転車乗用中の死者数は812人で、その半数以上(58.5%)は65歳以上の高齢者であった。事故に遭った時、大きなダメージを受けやすい高齢者への自転車教育は交通事故対策における大きな課題である。身体機能の衰えによりバランスがうまく保てないなどの行動特性が現れてくる高齢者にいま、どのような教育が行われているのか。各地域での取り組みを取材し、高齢者の自転車事故をなくすために、どのようなことを行うべきか、その方向性を探る。



三重県鈴鹿市の箕田地区老人会が主催する「交通安全教室・自転車の乗り方」

※1 あやとりい＝鈴鹿モビリティ研究会(2面注釈参照)が開発した交通安全教育プログラム。高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりい 長寿編」、小学3・4年生向けの「あやとりい 小学生向け」「あやとりい 自転車トレーニングマニュアル」、幼児向けの「あやとりい ひよこ編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしくときあかし りかいして いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatori/>



埼玉県警察本部川越警察署による「高齢者自転車運転免許講習会」



(財)神奈川県交通安全協会などが主催する「交通安全3世代ふれあい自転車神奈川大会」

6月15日、三重県鈴鹿市にある箕田公民館で、箕田地区老人会主催の「交通安全教室・自転車の乗り方」が開かれた。午前11時から12時までの1時間で「あやとりい 長寿編」による座学と、公民館の敷地を利用して実技体験を行う。参加者は42名、うち女性が33名だ。

この日のテーマは一時停止と、身体に合った自転車に乗ることの重要性。指導にあたるのは鈴鹿市交通安全教育指導員の森友里さんと樋口貴美さんだ。ユーモアを交えながらテンポよく話す。「自転車に乗って、道路を渡りながら左右を見ていたら、お年寄りは身体が思うように動かないから、フラフラするわな。フラフラせんように、渡る時は必ず止まって見る。止まると気持ち落ち着き、まわりがよう見えるようになるのよ。小さくうなずきながら参加者が聞き入る。

次に腹話術。人形とフラダンスが趣味のおばあさんの掛け合いという設定。フラダンスの明るくきれいな服を着るようになってすっかり気持ちが若返ったおばあさんだが、外出する時は地味な色の服を着る。「朝夕の薄暗い時に事故に遭いやすい。クルマから高齢者の姿が良く見えないのが原因の1つだから、フラダンスの時だけでなく、出かける時も明るい目立つ色の服を着てね。それでもシックな服が好きという人は、反射材のたすきをかけてね。みなさんに配られているでしょ。それは仏壇の奥に入れてあって、それをしまいだんだらダメよ」。参加者から笑いが起こる。



「あやとりい 長寿編」指導マニュアル

事故に遭わないための乗り方を高齢者に身につけてもらう

続いて、二人が表わら帽子をかぶったおじいさんとおばあさんの姿で登場。おじいさんがおばあさんに自転車をプレゼントするという設定で、自転車の整備、自転車を自分の身体に合わせる調整法を解説する。「自転車で乗って足が地に着いたら、コケる心配はないわな。次は出発やね。後ろからクルマが来ていないか見て、なに、首が回らん？上半身も少し動かすよ」「これは、止まれの標識やね。クルマは止まらんといかんわな」「ほらほら、おばあさんも止まらんと。自転車を止まらんと」「ホー、止まるとよく見える、よく聞こえるもんなやね」「右見て左見て、また右を見る。これで、おばあさんも長生きできるわな」。

二人の熱演のあとは、公民館の敷地を使つての実技。狭いスペースに鈴鹿モビリティ研究会の相浦和則さんが工夫してコースを設営した。「このあたりに多い踏切は下に丸を並べて、実際の線路に近い状況にしてみました。駐車車両も配達のクルマが何気なく止まっています。いるような形で置いていきます。既製のコースより現実感が出て、一生懸命に取り組んでいただけです」と相浦さん。始めに相浦さんがコースの説明と、乗り方を解説する。時間の都合で実技を行ったのは7名、他は見学となった。

「右よし、左よし、右よし、後ろよし」と確認して出発。最初の横断歩道では自転車を降り、押し渡す。突き当りの交差点では、左右と後方を確認して右折。前方には駐車車両。前後を確認して車両の横を通ってUターンする。踏切の手前で自転車を降り、押し渡す。後方を確認せずに渡った人には、指導員

「右よし、左よし、右よし、後ろよし」と確認して出発。最初の横断歩道では自転車を降り、押し渡す。突き当りの交差点では、左右と後方を確認して右折。前方には駐車車両。前後を確認して車両の横を通ってUターンする。踏切の手前で自転車を降り、押し渡す。後方を確認せずに渡った人には、指導員



腹話術の人形を使って、座学にも興味を持ってもらう



鈴鹿市交通教育指導員による寸劇



駐車車両の脇を通過する参加者

※2 鈴鹿モビリティ研究会＝鈴鹿市とHondaが、将来のより良い交通環境づくりをともに進めることを目的として1993年に設立され、道路環境の改善や交通安全プログラムの開発、教育の実施などを行っている。



踏切では自転車を降りて押して渡るように指導

が「後ろも見てね」と声をかける。最後は直進し、左折してゴールとなる。交通安全教室は今日が初めての杉山弘子さんは、いまの自転車は座る位置が高いため、少し勢いをつけて乗るそうだ。「踏切で警報機が鳴ったら降りて待ちます。後ろを見る時も降りて見ます。今日はコースが短くてすぐ終わってしまった。もう一回乗りたかった」とやや物足りなさそうであった。

見学しながら参加者同士が話している。「こう暑いと、つい下駄で自転車に乗ってしまう。足は地面についているけどな、下駄だとつま先でついている感じで、フラフラするのよ」「そりゃあ、あんな危ないわな。去年もうちの団地で自転車教室を開いてもらったけど、ハンドルやサドルの高さを合わせるといかによと言った。元気がよくゴールに戻ってきた里菜行子さんは以前、自転車に乗っていた時に、坂道から下ってきた小学校高学年ぐらいの子もが

乗る自転車とぶつかりそうになったことがあるそうだ。「見通しが悪い場所で、相手がよく見えなかった。それから注意して、必ず止まって見ます。いま乗っている自転車は、ちょっと高くて片足がつかみません。今日の話を危険なことがよくわかったからすぐに調整してもらおうと思っています」と言う。20分ほどの実技の時間が終わり、館内にもどって交通安全教室は終了した。

「今日は暑い中、全員が外に出て実技に臨み、見学しました。みなさんの熱心さには頭が下がります。高齢者は習慣で、片足をペダルに乗せて、もう一方の足で地面をけり出して走り出すケンケン乗りをする人が多い」と、指導にあたった森さん。「でも、高齢者にケンケン乗りをやめるとは言いません。そうした高齢者の習慣を否定しなくて、元気に安全に活動してもらうためにはどうしたらいいかを考えながら話しています」と、高齢者を指導する時の心がまえを語る。腹話術を演じた樋口貴美さんは、「フラダンスの話で、服装の話に興味をもってくれてよかった」と感想を話す。

「座学の話によって、実技での参加者の注意の仕方が違ってきますから、どのような話をするかいろいろ考えます」。この日の交通安全教室をみると、交通安全指導員が交通安全の指導だけでなく、地域に密着して高齢者の元気を引き出すような役割も果たしているように思えた。

自転車教育の機会を提供する高齢者自転車運転免許制度

埼玉県警察本部は平成16年から、高齢者を対象に交通法規と自転車の実技の試験を行い、合格者に免許証を交付する高齢者自転車運転免許制度を始めている。

5月14日、川越警察署が主催する東武かすみ自動車教習所(埼玉県川越市)での講習会には高齢者128名が参加した。午後2時からの開講式では、川越警察署交通課長の塩田実さんが「今日の講習を通して、歩いている時、自転車に乗っている時、クルマを運転している時も、事故に遭わないようによく考えるいい機会にしてください」。

続いて、川越警察署交通安全教育講師の高橋豊知さんが、高齢者の自転車事故の実態、正しい乗り方などについて話した。「昨年、自転車に乗っていて交通事故で亡くなった方は埼玉県が一番多く、全体の4分の1になります。そのうちの4割以上が高齢者でした。事故に遭った高齢者で違反がなかったという人は、残念ながら少ない。一時停止をしない、安全確認をしないということが原因で、多くの方が事故に遭われています。通り慣れた道でも、油断しないことが大切です」。

自転車を守るべきルールはほとんどクルマと同じで、高橋さんは乗ってはいけない場合として次の5つを示す。

- ①ブレーキがきかない自転車には乗らない
- ②暗くなってからは、ライトのついていない自転車には乗らない
- ③身体に合わない自転車には乗らない
- ④二人乗り、傘差し運転はしない
- ⑤自転車も酒を飲んだら絶対に乗らない

自転車の正しい乗り方では、安全確認が大事であることを強調する。「右に曲がる場合には、事故に遭うケースが多いので、この時は後方の安全確認はしっかりとしてください」。標識の意味、歩道を走っていい場合の走行上の注意、交差点での注意などを話す。「信号機のない交差点には止まれの標識がよくあります。これは自転車も止まれの標識です。ここで止まらずに事故に遭うケースが多い。止まらずに事故に遭った場合、自転車側の違反。止まるだけでなく、右・左・右を見て、安全確認をします。また、止まれの標識がなくても、狭い道から広い道へ出る時は必ず右・左・右を見ましょう。信号機のある交差点で右に曲がる場合、自転車は二段階右折です。これは今日の実技でも体験してもらいます」。

2時50分からは筆記試験。20分で10問(○×形式)の問題に答える。その後、コースに出て実技試験に入る。この日は人数が多いので、2グループに分かれて開始。1人ずつ規定のコースを自転車で行き、実技試験評価項目に従って採点さ

筆記試験の前には筆記試験が行われた



実技試験の前には筆記試験が行われた



筆記試験と実技試験に合格すると、自転車運転免許証が交付される



止まれの標識がある場所では停止線の手前で一時停止をして、左右を確認する

- ①発進→後方の安全を確認して発進することができたか
 - ②指定場所における一時停止→停止線の手前で一時停止をし、左右の安全を確認して発進することができたか
 - ③信号交差点の右折(二段階右折)→信号に従って交差点の向こう側まで進行し、降車して向きを変え、進行方向の信号に従い、進行することができたか
 - ④故障車両脇の通過→手前で後方の安全を確認して進行することができたか
 - ⑤ジグザグ走行→カラーコーンに接触せず、ジグザグ走行することができたか
- 午後4時、実技が終了。修了式で試験の合格者が報告され、参加者全員が合格となった。代表して自転車運転免許証を授与された野村さだ子さんは「生まれて初めて免許証をただけてうれしい。交差点では左右の安全確認を忘れないようにしたい」と、笑顔で語る。急ぎさくさんは「交通安全に関わってきくと話を聞いたのは今回が初めてだったので、たいへん参考になりました。ただし、実技の試験では緊張して、普段のように走ることができませんでした」と話す。豊島邦江さんは、「50年以上も自転車

カラーコーンに接触せず、ジグザグ走行する参加者

シリーズ:自転車事故削減に向けて 第②回「高齢者の自転車事故をなくすために」

に乗っています。クルマやバイクの運転免許は持っているのですが、生活の中で通ルールを身につけてきた部分が多く、あらためて自転車を守るべきルールを学ぶことができて、とても良い機会になりました」と、この免許制度は高齢者の交通安全意識の向上に大きな効果をあげているようだ。

3世代が交流しながらルールとマナーを学ぶ

高齢者の自転車教育で新たな試みの一つが、神奈川県で開催している「交通安全3世代ふれあい自転車神奈川県大会(主催:財)神奈川県交通安全協会、神奈川県交通安全教育推進委員会、地区交通安全協会、神奈川県警察本部」だ。高齢者と子どもに保護者を加えた、いわゆる3世代交流による競技を通じ、交通安全への関心を高め、交通ルールとマナーを身につけてもらうことを目的としている。競技は子世代(小学生)、親世代(20~40歳代)、祖父母世代(60歳以上)が3名1チームとなつて実技走行テストを行うもので、上位3チームに団体賞が授与される。

7月7日に横浜文化体育館で第2回大会が開催され、8チーム24名の選手が体育館内に設定されたコースで実技走行テスト



横断歩道に渡ろうとする歩行者がいる場合は自転車も歩行者保護を行う

横断歩道に自転車横断帯がある場合はそこを通行する



見通しの悪い交差点で安全確認を行う参加者

自転車シミュレーターを活用した講習会

三重県桑名市では、高齢者を対象にしたホンダ自転車シミュレーター(以下、シミュレーター)による自転車乗り方講習会が開かれた。主催している桑名市危機管理課

三重県桑名市では、高齢者を対象にしたホンダ自転車シミュレーター(以下、シミュレーター)による自転車乗り方講習会が開かれた。主催している桑名市危機管理課

に取り組んだ。後方の安全確認をしてスタートすると信号機のない横断歩道があり、左脇には歩行者の人影が立っている。ここでは歩行者保護のために、一時停止する。さらに進むと、見通しの悪い交差点がある。徐々に自転車を進ませて左右と後方の安全確認をして交差点を右折する。この他、信号交差点での右折(二段階右折)、故障車両脇の通過、踏切の通過など、法規に従って走行する。コースの後半には、幅20cmの板の上を走行する板乗りや、1.8m間隔で置かれた7本のピンの間を通過していくジグザグ走行といった低速でのバランス感覚が要求される課題が盛り込まれている。

今回は、川崎市麻生の地区協会代表チーム(前島智弘さん、前島道也さん、緒方保さん)が第1位となった。同チームで祖父母世代として参加した緒方保さんは「いろいろな世代が交通安全を考えるこのような大会はたいへん有意義なものだと思います」と語る。主催者の一つである神奈川県交通安全協会の高橋民雄推進部長は、「他の世代と一緒に、競技やそれに向けた練習に取り組むことで、高齢者に正しい自転車利用への意識を高めるきっかけにしたい」とお話しと始めた。第1回目の昨年は4チーム、今年は8チームが参加した。家族でなくても参加できますので、地域の各世代の代表者がチームを組んで参加するケースが多いようです。地域の中で世代を超えた交流が促進され、自転車の運転マナーの向上につながると思います」と、自転車を通じた地域の交流にも期待を寄せる。



の奥村隆雄主幹は、「鈴鹿市で小学生を対象にシミュレーターによる自転車の乗り方指導を計画していることを今年4月に新聞で知り、これは高齢者にも使える教育機器だと感じました。桑名市では今年度、高齢者への安全対策を重点的に行っていくとしており、交通安全教育にシミュレーターを活用しようと、鈴鹿モビリティ研究会などの協力を得て今回の講習会を開催しました」と経緯を語る。

7月19日午前10時、会場の同市多度町すこやかセンター会議室に集まったのは桑名市老人クラブ連合会多度分会の会員22名。参加者は目の前に置かれたシミュレーターに興味津々。シミュレーターは、ペダルをこぐことで走行するなど実際の自転車と同じように操作を行う。停止時は左足を地面につけていないと、画面上では転倒してしまふ。また、停止している状態から走り出す時は、右後方にあるボールの先のランプの色(赤、黄、緑のいずれかが点灯)を確認して、ハンドルの部分にある同じ色のボタンを押さないと、シミュレーターから「ちゃんと後ろを見てから出発しよう」というメッセージが流れるなどさまざまな機能をもつ。時間の関係で、シミュレーターを体験するのは代表者2名。操作に慣れるため、一人ずつ練習走行してから、市街地の道路や、商店街の通りを想定したコースを走る。運転者が見ているシミュレーターの画面をプロジェクターに映し、他の参加者にも見て



発進は、右後方にあるボールの先のランプの色を確認して、ハンドル部分にある同じ色のボタンを押してから走り出す

もらう。奥村さんは映し出される場面に合わせて、「一時停止標識のある場所では停止線の手前で止まっから、徐々に自転車を進ませて左右の安全確認をしよう。このシミュレーターでは左右の画面で交差する道路の状況を確認できるようになっています」など、運転者にアドバイスしていく。

シミュレーターには再生機能があり、自転車などのような動きをしたか、道路のどの位置を走行したかを確認できる。この機能を使って、代表者2名の運転の振り返りをプロジェクターに映し出す。奥村さんが映像を見ながら、「ここでは歩道ではなく車道を走行していますが、歩道に自転車通行可の標識がありませんので、これでOKです」「駐車車両の脇を通る時はきちんと徐行できていました。クルマのドアが開くかもしれないので、これは良い対応です」と、解説を加えた。奥村さんは、「シミュレーターの再生映像をプロジェクターに映し、解説を加えながら参加者全員でどのような運転が危険なのか共有できる」ことが大きいという。

シミュレーターを体験した



シミュレーターの再生映像をプロジェクターに映し、解説を加えながら参加者全員でどのような運転が危険なのか共有する

た桑名市老人クラブ連合会多度分会会長の伊藤繁樹さんは、「発進する時に右後ろにあるボールの先についているランプの色を確認しないと機械から警告が発せられるので、走り出す前に右後方を確認するクセが身につきました。また、自転車通行可の歩道を走行する時は、車道寄りを走らなければいけないことを、自分の運転を見ながら学ぶことができました」と、シミュレーターの効用をあげる。「シミュレーター教育のメリットは場所をとらないこと、天候に左右されないこと。シミュレーター自体がコンパクトな大きさ(奥行1760mm×高さ1270mm×幅892mm、重量62kg)なので出前講習には最適で、公民館や会議室などのちょっとした場所で実際に近いトレーニングができます。奥村さんは今後、桑名市老人クラブ連合会を中心に、シミュレーターによる自転車乗り方講習会を展開していく考えだ。高齢者の自転車教育に新たな芽が育ってきている。

今回の事例に見る自転車に乗る高齢者に伝えたいポイント

- 自分の身体に合った自転車に乗る。自分の身体に合わせて自転車を調整する
- 乗車する時、発進する時、右折の時などは後方を確認する
- 道路や踏切を渡る時、一時停止場所では、止まって右・左・右を確認する
- 夜間、出かける時は明るく目立つ色の服を着る。または反射材を身につける
- 自転車通行可の歩道では車道側を走行し、歩行者を優先する

自転車事故削減のために

●小冊子「トラフィック・サイクル」

～自転車は街を走る仲間～

「トラフィック・サイクル」(監修:岸田孝弥・中京大学教授)はクルマやバイクの運転者向けに自転車との事故を未然に防ぐヒントを掲載した小冊子。自転車利用者の行動特性を理解し、事故防止に役立てていただくための知識やデータ、コラムが盛り込まれている。また、特別付録として「楽しく覚える標識ランプ」が付く。



●小冊子「トラフィック・シニア」

～街行く高齢者たち～

「トラフィック・シニア」(監修:鈴木春男・自由学園最高学部長・千葉大学名誉教授)はクルマやバイクの運転者向けに高齢者との事故を未然に防ぐためのヒントを掲載した小冊子。高齢者の行動特性を理解していただくための知識やデータ、コラムが盛り込まれている。また、特別付録として「反射材」が付く。



※詳細については以下のホームページを参照
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/traffic/traffic.html>

●お問い合わせ先
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL:03-5412-1736

※3 Honda 自転車シミュレーター=自転車利用者のマナーや危険予測能力を高めることを目的に、Hondaが開発中の体験型教育機器。ハンドル、ブレーキをはじめ、ペダルをこぐことで走行するなど、実際の自転車と同じ運転操作感覚を実現。リアルな映像と音響を使って、混合交通の中での走行を体験しながら、左右および後方の安全確認の基本動作が学べるようになっている。添付されたソフトには交通法規を学ぶコースや、危険予測を学ぶコースを用意。危険予測コースを走行後は、危険な状況に陥るプロセスをさまざまな角度から再生でき、自分の走行を振り返ることができる。現在、効果的な教育方法などを研究中。